



カナダの3大学との学術交流

学生たちの報告から

酪農学園大学エクステンションセンター 国際交流担当 主任主事

高山 基樹

酪農学園大学は、アルバータ州立大学をはじめ、アルバータ州立オーラルカレッジ、サスカチュワン州立大学の3つの大学と学術交流協定を締結し、教職員や学生の交流を行っています。派遣した学生の報告書（抜粋）とともに各大学との交流の様子をご紹介します。

アルバータ州立大学との交流

アルバータ州は、カナダ西部に位置し南部および西部はロッキー山脈により山脈地帯であり、北部は標高数百メートルの台地となっています。州都であるエドモントン人は人口101万人ほどの都市で、そのエドモントンに1908年創立のアルバータ州立大学があります。トロント

大学に次ぐカナダ屈指の名門州立大学で、医療薬理系で評価が高く、エクステンション学部(Faculty of Extension)が中心となった英語教育が盛んでもあります。

酪農学園大学は、1985年に学術交流協定を締結し、当初から教員の交流や研究交流を活発に続けており、近年では学生の交流が盛んになってきています。

【語学+動物・環境保護プログラム】

このプログラムは、毎年、夏季休暇中の1カ月間の日程で実施されています。酪農学園大学内で参加希望者を募り、学科・学年を問わず10名程度の学生を派遣しています。

内容は、8月から9月にかけての

約1カ月間、現地の家庭にホームステイをし、アルバータ大学での午前中の語学研修を中心に、動物保護や環境保護に関する講義や、動物園・動物保護団体での視察やレクチャー、ロッキー国立公園での1泊2日の視察実習などを行います。

■2006年度 語学+動物・環境保護プログラム派遣学生体験談(抜粋)

環境システム学部生命環境学科2年 久井貴世

23日間のこの研修を通して、毎日英語で過ごすことよって今まであまり触れようとしなかった英語に親しむことができました。そして英語を話すということはとても大切な

ことだということを実感することができました。また、カナダの家庭で生活し学校に通ったりすることで、日本とは異なる文化を体験し知ることができました。

カナダの雄大な自然にも触れることができました。そして、その自然と人間の活動との軋轢も知ることができました。また、カナダでの動物・森林の保護やペットの管理などについても知ることができ、ぜひ今後の勉強の参考にしたいと思いました。

今回のこの貴重な体験は、今後の生活や活動に生かしていかなければならないと思います。

Visiting Student Certificate Program

このプログラムは、アルバータ大学で1997年から実施されているプログラムです。大学で受講するには、英語力が満たない留学生のためのプログラムで、6カ月～1年間の6スケジュールが用意されています。派遣学生は、前半の2カ月間または4カ月間、英語（ESL）を受講します。このESLを受講した後、個人の英語力に合わせて、1学期につき9～15単位の授業を履修することが出来ます。

TOEFLの成績が入学資格に影響しないプログラムですが、取得した単位が、酪農学園大学で認定される場合もあり、学生にとって多くのメリットがあるプログラムとなっています。

■2005年度 Visiting Student



ホストファミリーと(久井)

Certificate Program
派遣学生体験談(抜粋)

酪農学部食品科学科4年 上野正人
英語はもちろんですが、出発前に日本、そして世界の歴史をもう一度勉強しておくことをお勧めします。なぜなら、日本の歴史に興味がある外国人に会った時や、「日本のことをもっと知りたい」と思っている外国人に日本のことを間違いないように説明し、教えてあげなければいけないからです。ですから、日本のことを言うときは、英語の前にかかりとした知識が必要だと感じました。

また、日本はさほど宗教に関心を持っていない人はいないと思いが、カナダでは「宗教＝人生の生き方」と考えている人も多く、よく



レイクルイーズで(久井)

「あなたは何を信じますか?」と聞かれました。そういう面からも、出発前にカナダの歴史や文化に関する本を読んでおくとカナダの生活に慣れやすいのではないかと思います。

最後に、英語を使い、他の国の人と話しをすることによって、日本では学ぶことのできない多くの事を学ぶことができたので、今は本当にカナダに行って良かったと心から思えます。

アルバータ州立オールズカレッジとの交流

オールズカレッジは、エドモントンから南へ約200キロ、カルガリーから北へ約85キロに位置するOldsという小さな街にある、アルバータ州最大の農業カレッジです。1913年に創立し、学生数が約1300名



エドモントンの柔道サークル(上野)

で実践トレーニングを特徴としています。酪農学園大学は1985年に学術交流協定を締結し、酪農学園の任意団体である北海道アルバータ酪農科学技術交流協会を通じ、これまで約60名の学生を派遣してきました。プログラムの内容は1年間のプログラムで、前半4カ月間のファームステイ研修を行い、後半はオールズカレッジの授業を履修するという内容です。2006年度の派遣より、学生のニーズに対応すべく前半の4カ月は、アルバータ州立大学で英語を学び、後半はオールズカレッジの授業を履修する「英語研修コース」での派遣も行っていきます。

■2006年度 オールズカレッジ「英語研修コース」派遣学生体験談(抜粋)

酪農学部食品科学科卒業 成田 慈
私はカナダ・オールズカレッジ派遣留学・英語研修コース参加という事で、一年間の留学プログラムの最初の4カ月間はエドモントンのアルバータ州立大学のESLに通い、後半はオールズカレッジで生活しました。私は日々、沢山のひととふれあい、様々な事に挑戦する事でカナダの文

化を知り、いろいろな場面で使う英語に触れる事ができ、大変充実した留学生活を送る事ができました。

ESLは1ターム2カ月で私は2ターム通いました。授業は一日4時間で主な内容はディスカッション、ライティング、リスニングでとても実践的でした。クラスメイトは韓国人、メキシコ人、コロンビア人、台湾人、日本人で皆とても面白い人たちです。仲良くなり、彼らとはよくパーティーをしました。授業内容は実践的かつ個性的で皆の前でプレゼンテーションをすることがありました。実際に美容室に電話をかけて料金、営業時間、場所などを聞いて発表したり、クラスメイトとペアになってエドモントンの観光地に行き、クラスでレポートするなどとても楽しかったです。このタームの終わり



ホストファミリーと一緒に(成田)

にはクラスで劇をやりました。観客は他のクラスの生徒たちでした。自分は絶対使わない台詞を英語で覚えるのがとても大変でした。ホストファミリーに練習を手伝ってもらい、駄目出しをしてもらってなんとか本番は無事に終える事ができました。今思えば、この恥ずかしい劇は会話を練習するためにとても効果的だったと思います。

4カ月間のESLを終え、今度はオールズカレッジでの生活が始まりました。とても便利だったエドモントンでの暮らしから一転して何も無いオールズでの生活が始まり、はじめは不便だと思っていた。しかしここでは沢山の人の優しさに触れる事ができました。

最初のSemesterの4カ月間ソニー



レイクとロッキーを背にESLのクラスメイトと(成田)

インクに没頭しました。授業ではスカートを縫ったり白衣などを作ったりしました。クラスメイト達は皆個性豊かで、おしゃれで楽しい人たちでした。生徒の中にはエスキモアの職人さんがいて、カリブーの毛の民芸品を作っていると言っており、貴重な話を聞きました。課題の難易度が上がって行くにつれ、深夜の1時くらいまで学校に残って課題作りをする事がりましたが、クラスメイト達と励まし合いながらこなしていききました。ソイキング、その他の授業の宿題、ソフトボールの練習とこのSemesterは大変充実していました。

後半のSemesterでは今度は化学系の授業を中心に履修しました。中でも水質についての授業が印象的でした。アルバータの水事情について学んだことは普段飲んでるOldsの水について知る事ができたので良い事でした。自分で水の硬度を測定する実験があり、Town Houseの水道水を検査したのですが結果はグラスや鍋が真っ白になる程の超硬水でした。授業では論文を読むなどとても難しい内容でしたが、私は親切なクラスメイトたちに助けられ、無事に授業を終えることができました。

私はカナダで、悔いを残す事の無いように暇な日を作らないよう様々な事に挑戦しました。毎日がとても充実しており、あつという間に時間が過ぎていきました。私は沢山の人の支えがあつたおかげでカナダでの生活をとても楽しむ事ができました。この留学で経験した全ての事は私の強みになると思います。今後はカナダで学んできた知識を様々な事に生かしていきたいです。



ソイキングの実習室にて。みんな乗りが良く面白かった(成田)

サスカチュワン州立サスカチュワン大学との交流

サスカチュワン州は、カナダの中西部（アルバータ州の東）に位置し、州の経済は主に農業にて支えられています。またウランを始めとした鉱物の生産地としても有名です。1907年に創立されたサスカチュワン大学は、州最大の都市、サスカトゥーンにあります。バイオテクノロジーの分野では世界最先端の研究が行われている場所の一つで大学内に研究施設があります。また、ワクチン・伝染病機構（VIDO）も大学内にあり、人と動物に関する伝染病の研究が行われています。50年以上かけて進められたカナダ国内最大規模の科学研究施設、カナディアン・ライトソース（CLS）もまた大学内に拠点を置いており、この施設



家畜として研究しているラマ（七戸）

には1億7900万カナダドルを投じて建設されたシンクログロトンがあり、様々な分野で世界クラスの科学研究に使われています。

酪農学園大学は、2006年に学術交流協定を締結し、教員の交流や学生の交流も行っております。

■2006年度「語学+獣医学研修プログラム」派遣学生体験談（抜粋）

獣医学部獣医学科4年 七戸新太郎
解剖学は日本よりもラフでした。

予定の半分の時間で終わることもよくありました。しかし全体としては講義と実習が連結して理解するにはとてもよいプログラムだと思います。向こうでは実習をとても重視していました。それは酪農大でも同



英語の教員と（七戸）

じだと思いますが、大きく違うところは二つで、一つは実習の時間：とても短いです。予定の時間は2時間で、みんなが必死になって時間内におわらせようとするものすごい集中力！真剣！リラックスした中の適度な緊張感！それをとってもすばらしく、今まで見たことのないものでした。この時間内で最大の成績を出そうという姿勢は本当に見習うべきだと思いました。

クリニックは2週目がLarge Animalで3、4週目がSmall Animalでした。Large Animalでは馬の外科を見てきました。脚の手術や安楽死の現場に立ち会ってとても貴重な体験ができました。Small Animalでは基本的に手術を見学していました。犬の関節炎の手術、骨折の修復、白内障の手術、ウサギの避妊手術などさまざまな手術を間近で見ることができました。自分が外科に興味があるのでとてもモチベーションを上げることとなりました。

今回の研修で自分がこれからどうすべきかを学ぶことができてとても大きな収穫を得ることができました。

KYOWA PRINTING

質の高い「ビジュアル・コミュニケーション」をささえる商業印刷専門企業——



企業と生活者を結ぶ

協和印刷株式会社

〒063-0834 札幌市西区発寒14条14丁目2番50号
TEL (011)666-1641・FAX (011)669-2332